

tyr21

やってみよう! 21 ▶▶ Chr関数で文字列を改行する

B列の住所1の文字列データから「東京都千代田区」の後に改行コードを入れてD列の住所2に代入するマクロを作成して、[文字列の改行] ボタンのクリックで実行します。

	A	B	C	D	E	F	G
1	郵便番号	住所1		住所2			
2	1020072	東京都千代田区飯田橋		東京都千代田区 飯田橋		文字列の改行	
3	1020082	東京都千代田区一番町					
4	1010032	東京都千代田区岩本町					
5	1010047	東京都千代田区内神田					
6	1000011	東京都千代田区内幸町					

ファイル名 try21



- Left関数で、先頭から7文字までのデータを取り出します。
- Mid関数で、8文字以降のデータを取り出します。
- Chr関数で、文字列を改行するコードを挿入します。
- 2つの文字列とChr(10)を&で連結します。
- For～Nextステートメントで、処理を繰り返します。



Chr関数

Chr(文字コード)

Chr関数は、文字コードに対応する値を返します。

引数の「文字コード」は、必ず文字を特定するための長整数型 (Long) の値を指定します。「文字コード」は、通常0～255の範囲の値を指定しますが、ASCIIコードの0～31の範囲の文字は表示できません。この中には制御文字が含まれています。この制御文字を利用するとMsgBox 関数やInputBox関数などを使ってメッセージを表示するときに、文字列の中にタブや改行を含めることができます。

よく利用される文字コード

Chr(9)	タブ
Chr(10)	ラインフィード
Chr(13)	キャリッジリターン

tyr22

やってみよう! 22 ▶▶ InStr関数で文字列中の文字を調べる

B2セルのホームページのURLを調べて、ホームページが正しく表示できるURLは「ホームページを開きます。」と、URLが正しくないときは「URLが正しくありません。」と表示するマクロを作成して、[文字列の操作] ボタンのクリックで実行します。

	A	B	C	D	E	F	G
1							
2	URL	http://www.soft-i.com/				文字列の操作	
3							
4							
5							

ファイル名 try22



- InStr関数は、指定した文字が見つからなかった場合には0を返します。
- 「http://www.」の文字が文字列中にあるかどうかを調べます。
- If～ThenステートメントでInStr関数が0を返すかどうかで条件を分岐します。
- MsgBox関数で、それぞれのメッセージを表示します (MsgBox関数は128ページ参照)。



InStr関数

InStr([開始位置], 文字列, 検索する文字列)

InStr関数は、指定した文字が最初に見つかった位置を返し、文字が見つからなかった場合には0を返します。引数の「開始位置」は省略可能です。検索の開始位置を表す数式を指定します。省略すると、先頭の文字から検索されます。

引数の「文字列」は、必ず検索対象となる文字列式を指定します。

引数の「検索する文字列」は、必ず文字列内で検索する文字列式を指定します。

ワンポイント▶▶

VBA関数を組み合わせて使用する

「やってみよう! 21」では「東京都千代田区」は必ず7文字でしたが、他の区ではこの方法は使用できません。そこで折り返す「区」や「市」の文字が、文字列中の何文字目にあるかをInStr関数（「やってみよう! 22」）で調べてからLeft関数とMid関数で処理することができます。

「やってみよう! 21」の解答の「Left(Cells(X, 2).Value, 7)」の数値の「7」の部分で「Left(Cells(X, 2).Value, InStr(Cells(X, 2).Value, "区"))」と変更すると、InStr関数は7という数値を返しますので、同じ結果になります。

これで「東京都新宿区」の場合も正常に折り返しコードが入ります。ただし、この方法ではデータの中に「区」の文字がないとInStr関数は0を返しますので注意が必要です。

try23

やってみよう! 23

Val関数で文字列から数値を取り出す

半角の数値に円記号を付けて、Excelからは文字列と認識されているデータがあります。この文字列から数値を取り出すマクロを作成して、[文字列の操作] ボタンのクリックで実行します。

	A	B	C	D	E	F	G
1							
2		4500円		4500		文字列の操作	
3		2000円					
4		8000円					
5		12000円					
6		36000円					

ファイル名 try23



- 文字列から数値として有効なデータをVal関数で取り出します。
- For～Nextステートメントで、処理を繰り返します。



Val関数

Val(文字列)

Val関数は、文字列から数値として有効なデータを返します。なお、円記号 (¥) やカンマ (,) などの通常は数値の一部とみなされる記号や文字も、数値として解釈しません。また、文字列中に含まれるスペース、タブ、ラインフィードは無視されます。

引数の「文字列」は、必ず任意の文字列式を指定します。文字列中に数字以外の文字が見つかったら、Val 関数は読み込みを中止します。

try24

やってみよう! 24

ワークシートのSumIf関数で
条件を満たす金額を集計する

売上明細表には、毎日の顧客や商品、担当者ごとの売上金額を入力してあります。この売上明細表から、顧客ごとの売上集計表を集計するマクロを作成して、[売上の集計] ボタンのクリックで実行します。

	A	B	C	D	E	F	G
1							
2							
3							
4							
5	月別売上明細表(4月分)						
6	番号	年月日	顧客	商品	個数	金額	担当者
7	1	4月1日	伊藤商事株式会社	テレビ	2	136,000	鈴木
8	2	4月1日	渡辺産業株式会社	エアコン	1	82,000	山本
9	3	4月2日	株式会社エコー	冷蔵庫	3	144,000	鈴木
10	4	4月3日	山本設計株式会社	エアコン	5	410,000	内田
11	5	4月3日	渡辺産業株式会社	電子レンジ	8	360,000	山本
12	6	4月5日	伊藤商事株式会社	冷蔵庫	2	96,000	鈴木
13	7	4月5日	渡辺産業株式会社	電子レンジ	4	180,000	山本
14	8	4月6日	山本設計株式会社	テレビ	3	204,000	内田
15	9	4月7日	株式会社サンリツ	エアコン	3	246,000	佐藤
16	10	4月7日	伊藤商事株式会社	洗濯機	2	76,000	鈴木
17							
18			顧客別売上集計表				
19				4月			
20			伊藤商事株式会社				
21			渡辺産業株式会社				
22			山本設計株式会社				
23			株式会社サンリツ				
24			株式会社エコー				
25			合計	0			

ファイル名 try24



- WorksheetFunctionプロパティでワークシート関数のSumIf関数を使用します。
- 顧客ごとの売上金額を集計するSumIf関数は、売上明細表の顧客のセル範囲が、売上集計表の顧客に一致する場合に、売上明細表の金額のセルの範囲の数値を合計します。
- VBAでワークシート関数を使用する場合は、Rangeプロパティを使用します。

try25

やってみよう! 25

ワークシートのCountIf関数で条件に一致する個数を集計する

売上明細表では、毎日の顧客や商品、担当者ごとの売上金額を入力してあります。この売上明細表から、商品ごとの売上集計表で売上回数を集計するマクロを作成して、[売上の回数] ボタンのクリックで実行します。

	A	B	C	D	E	F	G
1							
2							
3							
4							
5	月別売上明細表(4月分)						
6	番号	年月日	顧客	商品	個数	金額	担当者
7	1	4月1日	伊藤商事株式会社	テレビ	2	136,000	鈴木
8	2	4月1日	渡辺産業株式会社	エアコン	1	82,000	山本
9	3	4月2日	株式会社エコー	冷蔵庫	3	144,000	鈴木
10	4	4月3日	山本設計株式会社	エアコン	5	410,000	内田
11	5	4月3日	渡辺産業株式会社	電子レンジ	8	360,000	山本
12	6	4月5日	伊藤商事株式会社	冷蔵庫	2	96,000	鈴木
13	7	4月5日	渡辺産業株式会社	電子レンジ	4	180,000	山本
14	8	4月6日	山本設計株式会社	テレビ	3	204,000	内田
15	9	4月7日	株式会社サンリツ	エアコン	3	246,000	佐藤
16	10	4月7日	伊藤商事株式会社	洗濯機	2	76,000	鈴木
17							
18				商品別売上集計表(回数)			
19					4月		
20				テレビ			
21				エアコン			
22				冷蔵庫			
23				洗濯機			
24				電子レンジ			
25				合計	0		

ファイル名 try25



- WorksheetFunctionプロパティでワークシート関数のCountIf関数を使用します。
- CountIf関数は、売上明細表の商品のセル範囲が、売上集計表の商品に一致する場合に、売上明細表のセルの個数を合計します。
- VBAでワークシート関数を使用する場合は、Rangeプロパティを使用します。